



Title	〈シンポジウム発表要旨〉シンポジウム「ライト式建築の諸相」
Author(s)	藤田, 治彦
Citation	デザイン理論. 2016, 67, p. 119-119
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56272
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

シンポジウム

「ライト式建築の諸相」

司 会：藤田治彦／大阪大学大学院文学研究科

基調講演：水上 優／兵庫県立大学環境人間学部環境人間学科

パネリスト：岡崎甚幸／武庫川女子大学生生活環境学部建築学科

黒田智子／武庫川女子大学生生活美学研究所

山形政昭／大阪芸術大学芸術学部建築学科

シンポジウム趣旨

フランク・ロイド・ライトの弟子、遠藤新が設計した旧甲子園ホテル（現武庫川女子大学甲子園会館）は、ライトに直接学んだ弟子たちによる建築作品である、いわゆる「ライト式建築」の代表作であり、間接的な影響を示すだけの「ライト風建築」とは明らかに区別される。甲子園ホテルと、やはり遠藤が大きな役割を果たした芦屋の旧山邑邸は、日本におけるライトと彼の弟子たち、なかでも「愛弟子」という言葉がふさわしい遠藤新が関西に残した一対の世界的遺産といえる。なぜならば、ライトは、その他の近代建築の巨匠がほとんどすべて国際主義であったのに対し、世界各地の地域的建築、とくに日本のそれに多くを学んだ巨匠であり、そのライトに学んだ日本の建築家がそこからどのような建築を生み出していったのかは、近代建築史のなかでも特に注目されるべき世界的に極めてまれな事例だからである。

ライト研究者である水上優氏によるフランク・ロイド・ライトについての基調講演に続き、武庫川女子大学で、旧甲子園ホテルを学びの場とするだけでなく、その保存修復をも含めた独自の建築教育プログラムを推進されている岡崎甚幸氏、同大学生生活美学研究所で近代建築史を中心に研究を展開されている黒田智子氏、そして、ライトの同時代人で、同じ1905年に初来日し、ライトに勝るとも劣らぬ活躍をしたもう一人のアメリカ人建築家、ウィリアム・M・ヴォーリズの研究者として知られる山形政昭氏からパネリスト報告を受け、シンポジウムを行う。ライトの建築の平面、立面、そして空間の特性はどのようなもので、日本的なものを取り入れたライトに学んだ日本人の弟子たちにとってのそれらはどのようなものであったのか。また、ライトとは異なり、強烈な個性を持った建築というよりは、近代という一つの時代のなかで、ある意味ではアノニマスな諸様式で建築し、結果的に日本各地に多くの作品をも残したヴォーリズと比較すると何が見えてくるのか、さまざまな観点から興味深いシンポジウムになることが期待される。

（大阪大学大学院文学研究科 藤田治彦）